

## 民衆の収集状況。「

本邦の在地に於ける在地の民衆の収集は、主として各都道府県が行なつてゐる。その中で最も大規模な隠匿は、東京と大阪の二都市で、隠匿された民衆は多く、その結果、その施設も大規模である。しかし、その他の都道府県では、隠匿の規模は小さく、施設も少く、隠匿の方法も多様である。

この中で、東京の隠匿は、最も大規模で、隠匿の場所も多様である。

東京の隠匿は、主として、在地の民衆の収集が行われる。その中で、最も大規模な隠匿は、東京の隠匿である。その隠匿の方法は、主として、在地の民衆の収集が行われる。

これは、隠匿の方法が、主として、在地の民衆の収集が行われる。

### どぞお門、頭へ方免がめ縁として

これが、多種多様な隠匿の方法である。その中で、最も大規模な隠匿は、東京の隠匿である。その隠匿の方法は、主として、在地の民衆の収集が行われる。

次に、東京の隠匿は、主として、在地の民衆の収集が行われる。その隠匿の方法は、主として、在地の民衆の収集が行われる。

この中で、最も大規模な隠匿は、東京の隠匿である。その隠匿の方法は、主として、在地の民衆の収集が行われる。その隠匿の方法は、主として、在地の民衆の収集が行われる。

### 人書類をもとにした隠匿と、その方法

これで、最も大規模な隠匿は、東京の隠匿である。その隠匿の方法は、主として、在地の民衆の収集が行われる。

これは、隠匿の方法が、主として、在地の民衆の収集が行われる。

これは、隠匿の方法が、主として、在地の民衆の収集が行われる。

## 第IV部 資料

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20

# 1. 調査対象校の状況

調査にご協力いただいた学校に、学校図書館の状況を下のような簡単な質問票でおたずねした。回答をお送りくださったのは16校中12校で、その結果をまとめたものが61頁～63頁である。

## 〔 小学校へのご質問 〕

恐れ入りますが、調査結果分析の際の参考資料とさせていただきますので、以下の質問にご回答くださいますようお願いいたします。

(1) 貴校図書館の蔵書数（概数）を  
お答えください。 \_\_\_\_\_ 冊

(2) 貴校には、図書館担当の先生が  
      1. いる ( ) 校務分掌のひとつ  
      ( ) 校務分掌というより全  
            校的プロジェクト活動  
      ( ) 嘱託の先生の担当  
      ( ) その他

2. いない

(3) 貴校は、市や区で指定された読  
      1. そうである  
      2. そうであった（ ）年前  
      3. ちがう

(4) 貴校図書館の児童の利用状況を知ることができる目安があれば、お教えください。  
(例 児童1人あたりの年間貸し出し冊数など)

(5) 先生の眼からご覧になって、学校図書館一般の問題点がございましたら、ご自由  
にお書きください。

(6) 同様に、読書指導上の問題点がございましたら、ご自由にお書きください。

## (1)～(4)の回答集計結果

	A 児童数概数 (人)	B (1) 図書館の蔵書概数 (冊)	児童1人あたり 蔵書数 (B/A)(冊)	(4)1人あたり 年間貸出冊数 (冊)	(2)図書館担当 の教諭	(3)図書指導の 推進校か 否か
G	710	3000	4.2	不明	校務分掌の ひとつ	否
H	560	5000	8.9	低・中学年 40 高学年 7～8	"	"
I	420	15300	36.4	不明	"	"
J	620	4500	7.3	不明	"	"
K	790	6000	7.6	推測40	"	"
L	610	5400	8.9	20	"	"
M	1390	5000	3.6	不明	"	"
N	1100	16200	14.7	不明	"	"
O	770	6100	7.9	不明	事務嘱託	"
P	570	6100	10.7	50前後	校務分掌 嘱託	"
Q	560	6700	12.0	21.4	いる	推進校
R	530	10000	18.9	37	嘱託	"

## (5) オープンアンサー回答〔学校図書館一般の問題点〕

- 図書館利用に対する各教師の意識に差がある。(整頓、本の扱い方、図書指導)
- 学校図書館が学校の中で1つの特別教室という位置づけしかなく、図書館としての本来的な機能が果たされていない。
- 配当予算が絶対的に低いために現状維持がやっとである。新しい図書資料(テープ、映像等)を拡充する計画が立たない。
- 予算が少ない。同じ本が何冊もあればよい場合もあるが予算が限られてついちがった本を一冊ずつの購入になりがちである。
- 図書館の採光位置などを再考しながら、蔵書を増やすことで経費難である。図書館の運営は、わずかな市の補助金でPTA要員で運営している状態である。
- 利用指導が不充分なのか、予算不足なのか、たぶん両方の要因があると思うが、いたんでいる本が多い。(現在使用している本のなかには公立図書館で廃棄扱いになっているものより痛んでいるものもある。)
- 施設の不十分さを問題点の第一にしてる。暗い、手狭め、位置等に難色がみられる。近く校舎の大改修工事を予定しているので改善されると思う。
- 専任の担当者がほしい。
- 専任の司書教諭がほしいが配当にならない。
- 学級担任の仕事と図書館の係の仕事との兼任は仕事量からみて無理で、専任の司書をおくべきである。目録整備、台帳記入等、相当な時間を必要とし、単に、校務分掌ではだめで、夏期休暇中の仕事となっている。
- 学校図書部の主任ということで図書館担当者がいるが、それぞれ学級を持ちながらなので、図書館管理を充分するだけの時間的余裕がない。
- 専任の司書がないために、図書館経営が不十分になり、単なる貸し本屋的な施設になりやすい。しかも、読書指導重視即文学書の読書になっている。学習に役立つ学校図書館にする努力を必要とし、そのためにも司書が欲しい。
- 図書の亡失があって困る。専任の司書がないので、貸し出し・返却手続きなどがきちんとされない。
- どの学校にも正式の司書教諭の配置がなく、教職員が特別活動のなかで指導している現状は、今後検討を要する。

## (6) オープンアンサー回答〔読書指導上の問題点〕

- 児童のニーズと図書館にある本があってない。
  - 活字離れ……「はだしのゲン」「学習歴史まんが」などを好む。
  - 最近流行の本が図書館にない……赤川次郎や最近女子が好んで読んでいる文庫など。
- 課題図書・必読書をきめて読書を奨励しているが、なかなか向上しない。文字の少ない(マンガなど)本にはしる傾向もみられる。
- 読書指導する時間が位置づけられない。
- 読書指導が、教科の指導計画のなかに位置づけられていない(特に国語科)ために、その場しのぎの時間(本を読む活動の時間)で流されている。
- 学校図書館の資料に精通した専任の司書がいるわけではないので、児童と本を結び付けていくための手立てが限られてしまう。(各担任の裁量に任せることになり、読後の感想を書かせたり、話し合ったりなどの読書指導に偏ってしまう。)
- 低・高学年の図書室を図書館とは別にもっており、それぞれ活用されているが、いわゆる楽しみ読みが中心。資料センターとしての機能を見直し、一層生活全般(学習も含めて)に役立つ読書指導をめざしていきたいと考えている。
- 国語科の発展として、ただ自由に読みひたらせるだけに終ることがあり、読書指導といえる指導がなされていないように思われる。多くの先生方も読書指導に関心がうすいようである。
- 各担任に任されるということで、どうしても違いが出てきてしまうことが、子供にどう影響を与えるかと考えると、難しい問題ととらざるを得ない。